



キンギョを塩で消毒するといっているのは、どうしてなの

塩は薬がわり

キンギョは、皮ふにかびや細菌がつく病気にかかっていたり、寄生虫がついていたことが、多いものです。そのため、今まで飼っていたキンギョの水そうに、新しいキンギョを1匹き入れたら、全部のキンギョが病気になって死んでしまったということがよくあります。そこで、これを防ぐため、夜店で買ったキンギョなどは、塩水につけて消毒するといいでしょう。塩水は、細菌やかびをやっつける効果がありますし、寄生虫を退治するのにも役立ちます。

塩水の中では、キンギョは死ぬ

ただし、キンギョは、海水の中にすんでいる魚ではありません。だから、食塩水につけるのは、キンギョを海に入れるのと同じで、塩気のこい水では、キンギョは苦しくて、長くつけていると死んでしまいます。ですから、水そうに、塩を入れることは、ぜったいにしないでください。別の入れ物に作った塩水に、決めた時間だけキンギョを入れ、すぐ、キンギョを元の水そうにもどしてやります。

塩水のこさと、つける時間が大事

塩水を作るときは、塩のこさが大事ですから、正確に、塩と水の量を計って計算して作りましょう。海水と同じ3パーセントの塩水が薬としての効果は強いのですが、キンギョをつけておく時間をまちがえると、キンギョが死んでしまいます。ですから、ふつうは、1パーセントの塩水(水1リットルに10グラムの塩を入れる)を作って、キンギョを30分くらいその中に入れ、すぐ、元の水そうにもどしてやります。塩水に入れておく時間も、しっかり守りましょう。(監修・安部 義孝)

